

2017 年度
フランス語圏フィールドワーク奨学金
報告書

日仏学生が言語学習を通じて得るリアルな文化理解の現状

慶應義塾大学 総合政策学部 2 年
弘中未来

目次

はじめに

1．活動概要

2．研究背景

3．研究意義

4．活動内容

5．考察

おわりに

Résumé

はじめに

今回は、2017 年度フランス語圏フィールドワーク奨学金を頂き、個人研究を行う機会を頂戴しました。私は、大学入学前に南仏を訪れた際、フランス語の音の魅力を感じたことをきっかけにして、入学後にフランス語学習を始めました。その中でフランスについて触れる機会が増えたと感じています。言語学習を通じて初めて得ることのできる異文化理解があるのではないかと自身の経験から感じ、日本人とフランス人のそれぞれのリアルな文化理解の現状について知りたいと思いました。この度のフィールドワークは、現地の方とフランス語を活用して会話をする初めての体験となり、私にとって貴重な学びの時間でした。

このフィールドワークでは、日本語学習をしているフランス人学生にインタビューを行いました。その成果を以下に報告します。

1. 研究概要

本研究の目的は、日本語学習経験のあるフランス人学生とそうでないフランス人学生、およびフランス語学習経験のある日本人学生とそうでない日本人学生を対象にして調査（インタビューまたはアンケート）を行い、言語学習を通したリアルな異文化理解の現状を把握して、今後の日仏学生の交流のあり方について考えていくことである。

2. 研究背景

私がフランス語を学習していく過程で、日本人の学生はフランスに対してステレオタイプ的なプラスのイメージを持っている反面で、実際には表層的な知識しかない人が多いのではないかという疑問が強くなっていった。というのも、私自身が以前、フランスの街の名前といえばパリしか思い浮かず、他には「おしゃれ」・「スイーツが美味しい」・「美術大国」などの漠然としたイメージしか持っていなかったからである。しかし、週4日のフランス語の学習を始めて1年半が経った現在、単語の意味や文法の知識だけでなく、フランスの文化やフランス人の考えについても今まで全く知らなかったことに日々気付かされている。例えば、それまで興味のなかった美術の世界への関心が芽生え、よく美術館へ足を運ぶようになったり、インターン先でできたフランス人の友人との会話から進学や就職に関するシステムの違いや教育問題などについて考えたりするようになった。また、これは私が代名動詞の理解に苦しんだ時に気づいたことだが、フランス語は動作の相手や対象が常にはっきりしていて曖昧な日本語とはだいぶ異なっている。今でこそそうした違いがわかるが、言語学習をしなければわからない違いだった。

上記の気づきから言語学習者と非言語学習者の文化理解にはどのような違いがあるのかということに興味を持ったことが本研究のきっかけになった。

日本人の学生はフランスに対してどのようなイメージを持ち、何に関心があるのか。また、フランス人学生は日本文化をどのように感じているのか。これらの点について学習者自身のリアルな声を聞くことで、学生間の日仏交流の質を深めることができるのではないかということを検討するのが本研究の狙いである。

3. 研究意義

フランスは歴史が長く、美術や農業、グルメなど様々な面で知名度の高い国であるけれども、日本人学生のフランス文化への理解は実際には表層的なものに留まっているように思われる。そして、フランス人が持つ日本文化への理解も同様かもしれない。本研究では、特に言語学習を通して深まる文化理解に対象を限って考察し、日仏学生間の交流をより豊かで有意義なものにすることへ繋げる一歩にしたい。

4. 活動内容

4-1. 活動概要

このフィールドワークは2018年3月2日から22日までの約3週間におけるフランス滞在中に行ったものである。

今回は主に、日仏交流団体「ことのは会」をフィールドワークの対象にした。この団体は、エクス・マルセイユ大学に通う学生・留学生が中心となって活動している。この会が開催している「しゃべり場」という活動に直接参加し、インタビューを行った。

「しゃべり場」について

エクス-アン-プロヴァンスで行なっている仏日語交流ワークショップ

開催日：各水曜日の夜18:30~20:30

内容：少人数が同じテーブルに座り、フリートークを行う。日本語とフランス語（英語）^{*1}でそれぞれ15分毎に同じテーブルに座った者どうしが使用言語を変えながら、会話をする。テーブル上には日本語会話タイム、フランス語会話タイムを示す札があり、タイムキーパー役が合図をしたタイミングで言語を変えて話題はそのまま続けていく。

¹ 英語が含まれているのは、日本語を話さない参加者が英語学習のためにしゃべり場に出席することがあるためである。



写真：滞在期間中に参加させて頂いたしゃべり場の様子

4-2. アンケート内容

アンケートは、しゃべり場の参加者であるフランス人及び日本人学生を中心に行った。また後日 Google アンケート機能を利用して作成した同じ内容のものを、彼らの友人などにも声をかけて協力してもらった。

最終的に、フランス人男女計 16 名、日本人男女 19 名、平均年齢 22.9 歳のデータを得た。

行なったアンケート項目は以下の通りである。

<日本語>

- ・年齢、性別（任意）
- ・フランスに対してどのようなイメージを持っていますか
- ・フランス人に対してどのようなイメージを持っていますか
- ・フランスについて身近に感じる・関心のあるものは何ですか（選択式）
- ・フランス滞在の有無、その期間
- ・フランス語学習経験の有無

言語学習経験者に対する追加の質問

- ・ 言語学習期間
- ・ フランス語に対するイメージはどのようなものですか
- ・ フランス語と日本語の一番の違いは何ですか
- ・ 学習前と後で、フランスやフランス人に対するイメージは変わりましたか
- ・ 変わったのなら、その理由は何ですか

<フランス語>

- ・ Votre âge, Votre sexe (facultatif)
- ・ Avez-vous étudié le japonais ?
- ・ Quelle image avez-vous du Japon, en général?
- ・ Quelle image avez-vous des Japonais ?
- ・ Avez-vous un centre d'intérêt, une passion ou un loisir ayant un rapport avec le Japon?
- ・ Avez-vous déjà fait un séjour au Japon?
- ・ Si vous allez au Japon où voulez-vous aller et que faites-vous ?

言語学習経験者に対する追加の質問

- ・ Depuis quand étudiez-vous le japonais?
- ・ Quelle image avez-vous du japonais ?
- ・ D'après-vous quelle est la plus grande différence entre le français et le japonais ?
- ・ Votre image du Japon et des Japonais a-t-elle changé après votre étude?
- ・ Dans l'affirmative, veuillez nous donner les détails.

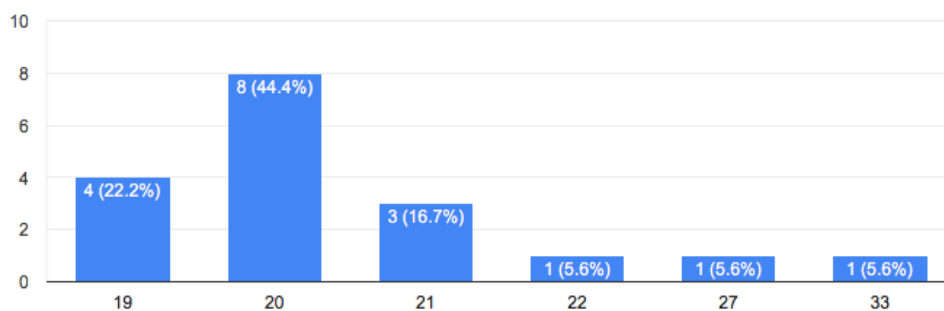
身近に感じる・関心のあるものについては、「歴史、食、ファッション、化粧品、映画、文学、建築、美術、観光名所、風景、人、生活習慣、政治、教育、その他」という項目一覧の中から、当てはまるものをすべて選択してもらうことにした。フランス人に対する質問の場合には、項目に漫画も加えた。

4-3. 回答

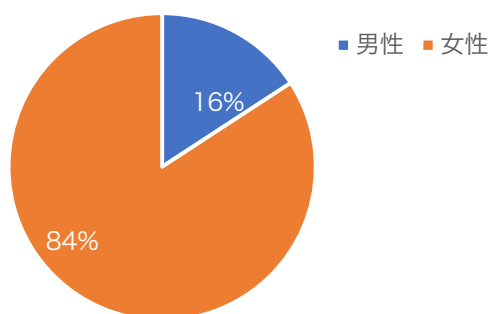
このセクションでは回答のみを提示する。

<日本人学生回答>

年齢



性別 (任意)

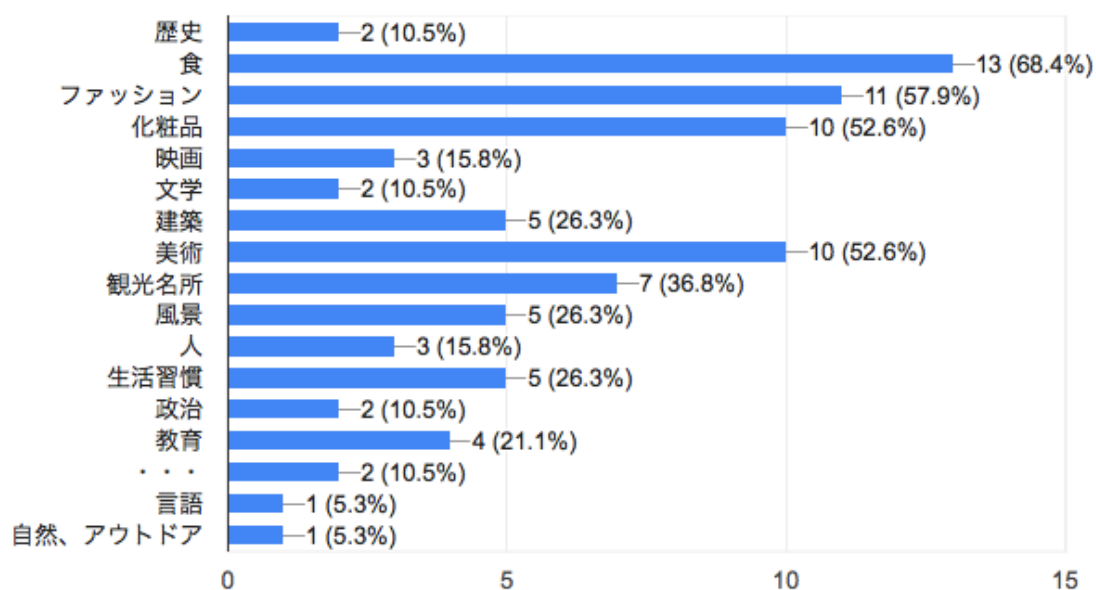


(左) フランスに対して、(右) フランス人に対して持っているイメージ

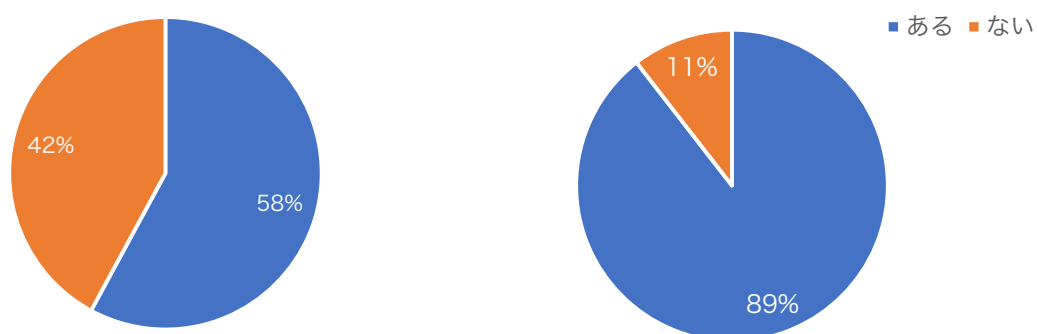
おしゃれ、高貴、品がある	10
ご飯、スイーツが美味しい	5
ファッションの街	2
自由	2
歴史がある、伝統を重んじている	2
芸術	1
個人主義の国	1
街が意外と汚い	1

おしゃれ	6
こだわりが強い、プライド高い	5
フレンドリー、レディーファースト	3
優雅、品がいい、ロマンチック	3
意思をはっきり伝える	2
真面目	1
個人主義	1
愛国心がある	1
フランス語しか話さない	1
鼻が高い	1

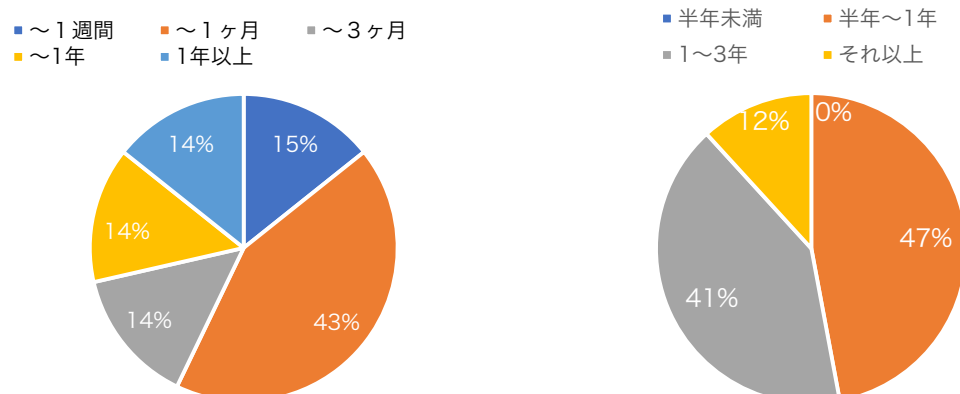
フランスについて身近に感じる・関心のあるもの



(左) フランス滞在経験の有無、(右) フランス語学習経験の有無



(左) フランス滞在期間、(右) フランス語学習期間

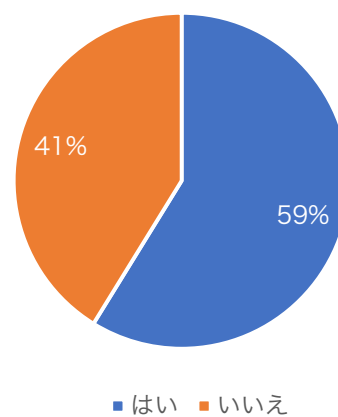
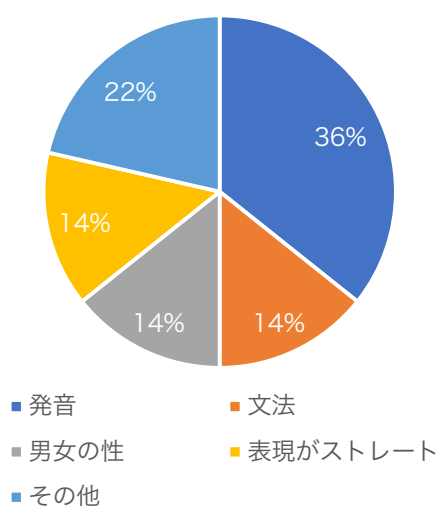


フランス語に対するイメージ

発音、イントネーションが難しい	5
合理的、論理的な言語	2
活用がたくさんある	1
英語に似ている	1
国際機関で使われている	1
ボソボソ話す	1
口調が穏やか	1

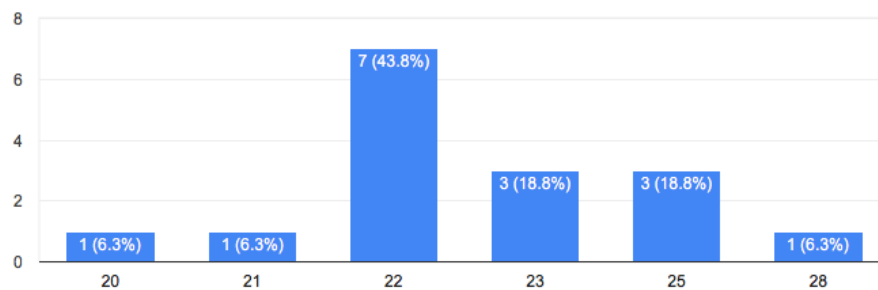
(左) フランス語と日本語の違いは何か

(右) 言語学習前後でフランスやフランス人に対するイメージが変わったか

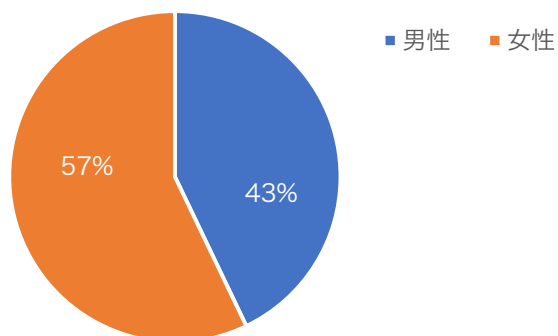


<フランス人学生回答>

年齢



性別 (任意)

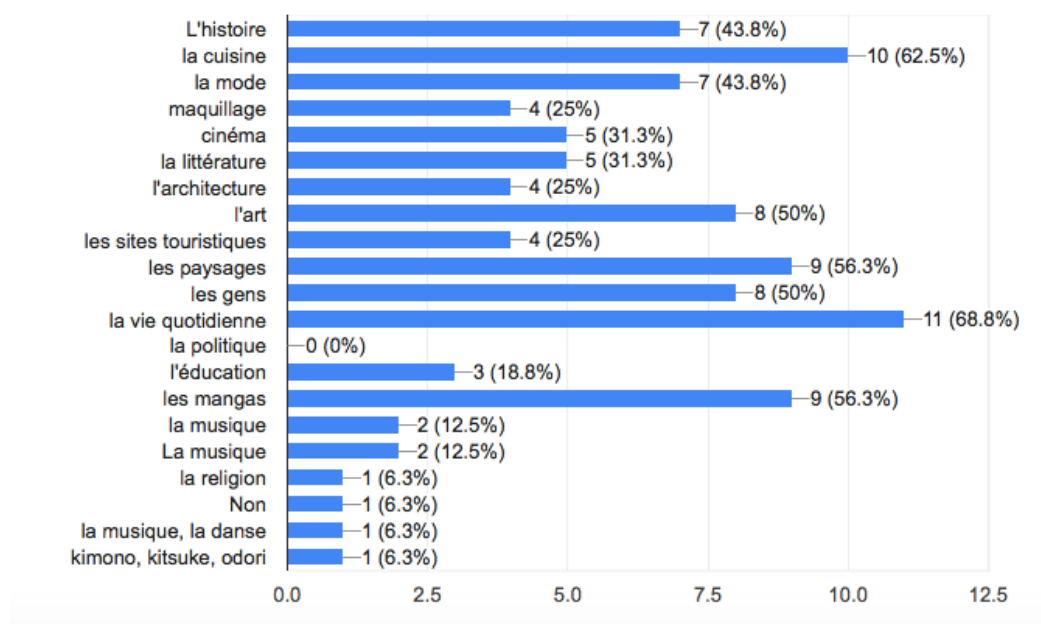


(左) 日本に対して、(右) 日本人に対して持っているイメージ

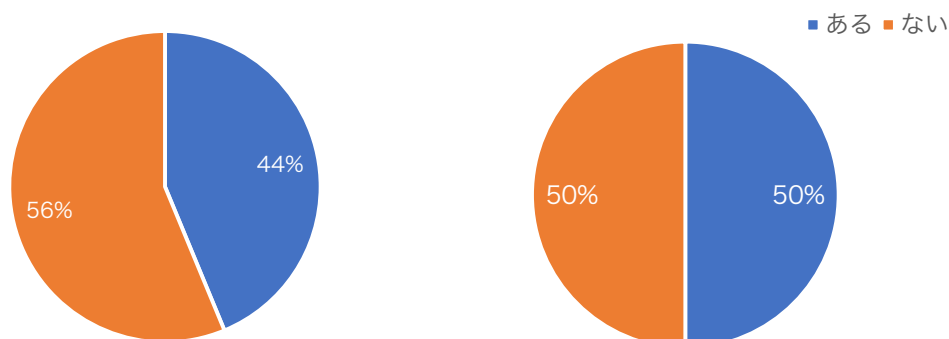
近代的、先進国	4
伝統を忘れずにいる	3
礼儀正しい、親切、規則	3
城、寺院	3
良い国	2
高齢化が進んでいる	1
独自性がある	1
羞恥心、遠慮	1
公的施設が充実している	1
治安が良い	1
働きすぎ	1

真面目、上品	4
控えめ、意見がない	4
親切、良い	3
集団行動	1
漫画好き？	1
未知	1

日本について身近に感じる・関心のあるもの



(左) 日本滞在経験の有無、(右) 日本語学習経験の有無



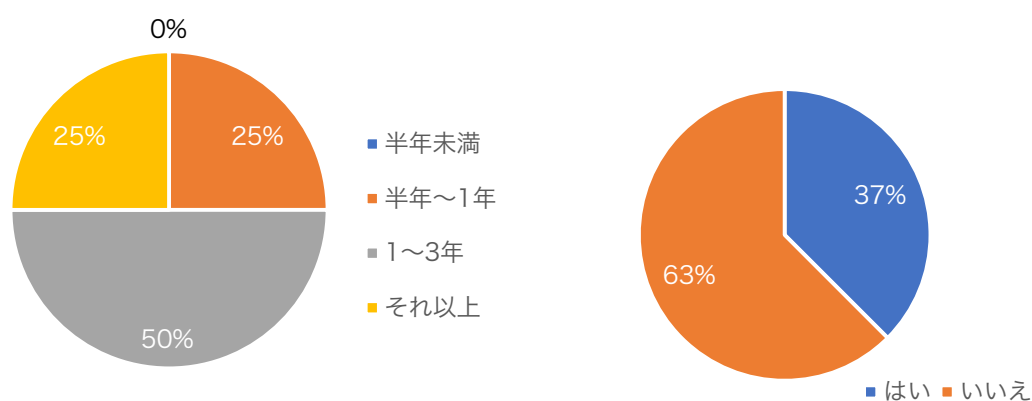
(左) 日本語に対するイメージ、(右) フランス語と日本語の違いは何か

難しい、複雑	3
美しい、豊か	2
発音は簡単	2
文化を表している言語	1
面白い	1
オノマトペ	1

文法、文の構造	3
男女の性、活用	2
単語の感覚	1
フランス語の方がはっきりしている	1
アルファベット	1

(左) 日本語学習期間

(右) 言語学習前後で日本や日本人に対するイメージが変わったか



5. 考察

インタビューとアンケート内容を踏まえて、以下の3点を中心に考察を行う。

- ①日仏の言語学習者と非言語学習者が相手国に持っている印象、関心のある文化とその差について
- ②言語学習を通して変化した印象や発見から興味につながったこと
- ③今後の日仏学生の文化理解と交流について

①日仏の言語学習者と非言語学習者が相手国に持っている印象、関心のある文化とその差について

日本人学生のフランスやフランス人に対するイメージや関心のある事柄は、言語学習経験に関係なく、全体的に食・ファッション・美術に偏る結果となった。化粧品の回答率が高かったのは、大手有名ブランド発信国だからとも言えるが、日本人学生の回答者が女性に偏ってしまっていたことも原因だと考えられる。フランス＝パリという意識は非常に強く、国や国民に対しては「高貴」「おしゃれ」というイメージが多かった。言語学習経験のある学生はそれに加えて、良い

意味でも悪い意味でも印象の変化が見られた。フランス滞在経験のある人は街の様子に関するギャップが大きいようだ。私もパリに行ったことがあるのだが、道端のゴミや地下鉄の古びた部分を見て、日本の公共施設の清潔さを再認識したことを覚えている。ネガティブな面にも取れるかもしれないが、固定概念のこのような変化はフランスに対する親近感を生み出すのではないかと私は思う。たとえば花の都・パリという言葉に示されているように、日本人学生にはフランスが高嶺の花のように見えているのだと感じた。

フランス人学生が日本について関心のある事柄としては、日本食と生活習慣という回答が圧倒的多数を占めた。漫画はフランス語に翻訳されているものが非常に多く、日本語を全く知らないフランス人も読んでいる。ある非言語学習者が、日本人のイメージに関する質問に対して、「漫画好き？」と回答していたことはとても印象的である。日本文化が持つ一面についての知識が日本人に対する固定概念につながっていると感じた。寿司は大変人気で、エクススの街の至る所に寿司屋があった。インタビューをしていると、ラーメンの人気も非常に高いことがわかった。また、ある日本語学習者は、コンビニエンスストアやファミレスなど、24 時間営業のサービスが便利だと話していた。私たち日本人にとっては当たり前であるこのようなことがフランス人には馴染みがなく、日常的なことが充実していることに魅力を感じるのかもしれない。

また、今回私が話を聞いたフランス人学生は日本語の学習期間が長く、日本への関心がとても高い。そのせいか、食や漫画に留まらない興味分野をいくつも持っていることが垣間見られた。隣町で着付けを週一回習っていたり、日本に行ったら新撰組にまつわるスポットを巡りたいと語ったり、今年の秋から日本の大学へ留学する予定があったりと、特に日本の伝統や歴史に関心のあるフランス人が日本語の高い学習意欲を持っていることがわかった。

日本人に対する印象については、どちらかというマイナス面を指摘する回答が少なくなかった。「日本人は働きすぎ」という回答は社会システムの問題を突くものであり、謙虚な国民性については「消極的すぎる」と判断されているようだ。私は海外の人に日本人がこのような思われているのはよく聞いていたため驚きはなかったが、このような印象を持たれることは、両国間の交流においては良くないと感じる。

②言語学習を通して変化した印象や発見から興味につながったこと

日本人学生から見た両言語の違いについては、文法と発音の違いが多く挙げられた。「フランス語には曖昧な表現が少ない」・「ストレート」・「男女で区別する」という回答は、フランス人側からの「日本人は意見・アイディアを言わない」という回答と関連しているのではないか。考えや意見を直接的に伝えるフランス語を使うのと、柔らかく曖昧な言い回しのある日本語を使うのでは、対話コミュニケーションにおいて大きな違いがある。また、日本語にない動詞の活用や性数の規則に難しさを感じ、行き詰まってしまう学生が多い。私は以前、大学で言語学習を半年や1年で学習を辞めてしまう人が多いのはなぜかと考えたことがあったが、これはそうした言語の違いに由来する難しさや暗記するものの多さが原因の一つであるとわかった。

学習の前後でフランスやフランス人に対するイメージが変わったかという質問に対して、「はい」と答えたのは約40%である。ただし、「美しいと思っていたが汚い面もある」・「フランス人は気難しそう→フレンドリーな印象」・「もっと英語に似ていると思っていたら発音や感覚などが異なり難しいと感じる」などといった変化を指摘する回答もあった。フランスに行くとしたらどこで何をしたいかという質問に対しては、大多数が「パリ観光」と回答したが、言語学習者の回答の中には、「ボルドーに行きたい」・「リヨンでゆっくり滞在」・「オルセー美術館で一日中絵画鑑賞」など、より具体的な内容を含んだものが多くあり、興味の幅が少し広がっていることがわかった。

日本語学習をしているフランス人にとって、日本語は「発音は簡単」だが「複雑な言語」であるようだ。言語学習を通して日本や日本人に対するイメージが変わったと答えたのは60%であり、日本人学生より高い結果だった。変化の内容としては、「日本語は思っていたより表現力がある」・「複雑」といった言語に対するイメージの変化が挙げられた。日本人にとっては英語とフランス語の共通点が目につくが、フランス人にとって日本語はあまり似つかない未知な言語であるのだろう。しゃべり場ではアニメや漫画を通じて勉強しているフランス人がとても多かったため、興味を持つきっかけとしてそれらの日本文化が日仏交流に大きな役割を果たしていることは再確認した。ただし、①でも述べたが、

日本人が皆漫画好きだと認識している非日本語学習者がいるように、日本や日本人に対する印象や知識が誤解を含んでいる可能性があることを感じた。

③今後の日仏学生の文化理解と交流について

実際にインタビューを受けたフランス人学生は、日本についての興味分野を見つけ、それらを深く知るために言語を習得したいという動機で日本語を学び始めた人ばかりだった。そのため、言語学習を通じて新たな関心が芽生えるという変化が多く見られたのは、今回のインタビューでは、日本人学生の方であった。しかし、全体を通して、言語学習を通じて相手の文化への認識を改めることはあるものの、お互いの国や人に対して固定概念を持っていることは少なく、日仏学生間の交流や文化理解はまだ浅い状況だった。

ここで、私の経験を一つ付け加えたい。今回の滞在中、異文化に触れることで自国の文化についての新しい関心も芽生えるのだということを発見した。そのきっかけは、滞在中にマルセイユで開催された日本文化の祭典 Japan Expo へ足を運んだ時のことである。人気アニメのコスプレをした人や日本食を片手に歩いている人で溢れている会場の様子を見て、日本の文化に関心を持つフランス人の多さに驚いた。同時に、改めて日本文化を見つめ直すことができ、その影響で私は帰国後、それまで興味のなかった茶道を始めた。いわば逆輸入のような出来事だが、いつか自分の言葉で直接フランスに何か日本の文化を伝えたいという想いを抱いたこの経験は私に大きな変化を与えてくれた。

今回のフィールドワークは現状を知る一步にすぎない。今後の日仏学生の交流をより有意義なものにするためにどうしたらいいのか、何が必要なのかをこれからの研究活動で考えていきたい。

おわりに

今回のフィールドワークでの滞在先であるエクス-アン-プロヴァンスは、2年前に旅行で訪れて以来、2度目の訪問だった。初めて現地の大学に通うフランス人学生や留学中の日本人学生と交流することができ、とても新鮮であった。フィールドワークの期間がちょうど現地の大学での休みの時期と重なり、しゃべり場の参加者は普段より少ないとのことだったが、都市から離れた小さな街にこんなにも日本語学習者がいるのかと正直驚いた。彼らの日本語学習の方法や学習に対する意欲からとても刺激を受けることができ、私自身フランス語学習の励みとなった。また南仏の人々と接しているとパリと比べて生活の様子が穏やかであるという印象を受け、地方によって暮らしや文化が異なると感じたため、今後機会があればパリでも調査をしてみたい。いつの日か、言語を通して自分から日本文化の素晴らしさをフランスへ、またフランス文化の素晴らしさを日本に伝えるために何かできればと思っている。

Résumé

Mon travail sur le terrain a pour objet d'analyser la situation réelle de l'acculturation à travers l'apprentissage d'une langue étrangère chez des étudiants français et des étudiants japonais.

J'ai fait des interviews avec des étudiants de ces deux pays. D'abord, j'ai mené des entretiens avec les Français qui ont déjà appris le japonais et ceux qui ne l'ont pas encore fait. Ensuite, j'ai fait la même chose avec les Japonais qui ont déjà appris le français et ceux qui ne l'ont pas encore fait.

Pour faire ces recherches, je suis allée à Aix -en -Provence et j'ai rencontré des étudiants à l'atelier « Shabériba ». Le Shabériba est une rencontre linguistique hebdomadaire entre les Français et les Japonais organisée par l'Association KOTONOHA à Aix-en-Provence. Dans cet atelier, j'ai posé des questions aux étudiants japonais qui avaient appris le français au Japon et aux étudiants français qui avaient appris le japonais en France. J'ai également mené des enquêtes auprès de Français qui n'avaient jamais appris le japonais ainsi qu'auprès de Japonais qui n'avaient jamais appris le français.

Après ces entretiens, j'ai remarqué que beaucoup de Français s'intéressaient au Japon et cela m'a fait plaisir. Mais j'ai senti que les images que les Français avaient du Japon étaient particulièrement limitées en nombre. Par exemple, ils ne connaissaient que les mangas, les sushis et les dessins animés. Les étudiants japonais n'avaient pas non plus beaucoup d'informations sur la France. Les étudiants qui étudiaient les langues, soit le japonais, soit le français, avaient l'impression que c'était dur et compliqué d'apprendre ces langues. Il m'a semblé

que la compréhension de la culture de la langue étudiée était encore superficielle chez les Français ainsi que chez les Japonais et que, en général, des deux côtés, la volonté de dépasser les stéréotypes n'était pas suffisante.

J'ai donc pensé que pour améliorer la compréhension réciproque, il faudrait multiplier les occasions d'échanges entre Français et Japonais. Nous pouvons améliorer davantage notre relation et c'est un thème sur lequel je souhaiterais continuer à réfléchir lors de travaux ultérieurs.